

Campus Today



松本歯科大学
発行所 学校法人 松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎ (0263) 52-3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

第51回 日本拳法・陸上競技部門を本学が主管

両部門とも個人種目での健闘光る

第51回全日本歯科学生総合体育大会夏期部門は、7月30日(火)から8月10日(土)の日程で福岡歯科大学の主管により開催されたが、夏期種目23部門のうち、日本拳法部門と陸上競技部門は本学が部門主管を務めた。本学の選手は両部門とも個人戦で奮闘し、日本拳法は第1学年の谷葉月さんが準優勝、第3学年の川尻紋子さんが第3位に、陸上競技のやり投では第3学年の廣井琢郎君が準優勝に輝いた。本学全体では12部門にエントリーして総合成績は27位だった。

日本拳法部門

戦、男子個人戦・新人戦並びに女子個人戦が行われた。

8月3日(土)・4日(日)の両日、本学が部門主管となり、第51回全日本歯科学生総合体育大会日本拳法部門が松本歯科大学体育館で開催され、熱戦が繰り広げられた。参加校は、大阪歯科大学、朝日大学歯学部、愛知学院大学歯学部、日本大学歯学部、日本大学松戸歯学部および本学の6校で、団体



日本拳法部門女子個人戦で奮闘する谷さん。(本学写真部撮影)

敢闘賞を獲得した。今年の日本拳法部門は、部員の少ない参加校があったために不戦勝となった試合も少なくなかったが、各大学関係者の盛大な声援の下、学生諸君は日頃の鍛錬の結果を大いに発揮されたと思う。

試合運営にあたっては、本学日本拳法部員だけでなく、在学生有志も協力しタイムキーパーなどの任務を手伝ってくれた。

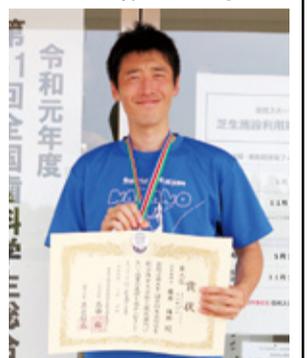
来年は、大阪歯科大学が主管校となる予定で、これからの1年間、勉学に励むとともに日本拳法を通じて心身ともに鍛えられることを望む。

(日本拳法部 顧問 渡谷 徹)

陸上競技部門

陸上競技部門も本学が部門主管となり、4日に松本平広域公園(信州スカイパーク)陸上競技場で開催され、21校が参加し、トラック18種目、フィールド11種目が行われた。

猛暑の中での開催であったが、7つの大会新記録が生まれ、男子5000メートルでは37年ぶ



やり投準優勝を喜ぶ廣井君。(本学写真部撮影)

令和元年度 第51回全日本歯科学生総合体育大会 陸上競技部門 男子やり投(800g)で38メートル88センチを記録して準優勝、男子砲丸投(7.26kg)も9メートル7センチを記録して第4位の好成績を収めた。各大学参加者の熱のこもった声援の中で、選手は練習の成果を十分に発揮したと思う。

試合運営は、長野県陸上競技協会、松本大学陸上競技部、信州大学陸上競技部、才教学園、本学職員の皆様に多大なる協力をいただき、支障なく大会を終えることができました。ここに御礼申し上げます。

(陸上競技部 部長 黒岩 寧々)

歯科補綴学講座・黒岩昭弘教授

日本顎咬合学会の理事長に就任

6月22日(土)・23日(日)の両日、第37回日本顎咬合学会学術大会が東京国際フォーラムで開催され、定期総会において歯科補綴学講座の黒岩昭弘教授が日本顎咬合学会新理事長に選出された。同学会は故・保母須弥也先生によって、咬み合わせの科学を基盤に顎口腔系の臨床を追究するために設立され、会員数は現在8千人以上。来る令和3年には設立40年を迎える。

「顎咬合学」とは、顎口腔系に関する解剖・組織・生理・病理を取り扱い、診査・診断・治療計画を基盤に顎口腔系の異



理事長就任の挨拶をする黒岩教授

常を治療する医学、近年では生化学・栄養学・再生医療を包括し、歯科の領域を越えて健康を支える科学として発展してきている。会員は歯科医師・歯科技

工士・歯科衛生士で構成されているが、最近では高齢者の口腔内の環境・機能を向上させる気運が高まり、医科や介護関係者とも活発に連携している。

理事長就任にあたって黒岩教授は「人生100年時代―臨床力を磨く」をテーマに掲げ、次のように抱負を語った。

「人々が生まれ持った顎口腔系の機能を使って咀嚼し、語り、笑うことを支えるのが真の顎咬合学であると考えています。咬合を中心としたさまざまな分野

松本歯科大学連

「松本ぼんぼん」14回目の出場 過去最多の総勢90人が参加

8月3日(土)、松本の夏の風物詩「第45回夏祭り松本ぼんぼん」が開催されました。1975年に始まった松本平を代表する一大祭りです。本学からは、過去最多の総勢90人が「松本歯科大学連」として14回目の出場を果たしました。

ラストくん」のイラストがあらわれた揃いのTシャツとウチワを手に踊りました。テレビ松本の中継では、前島連長がインタビューに応じ、大学と病院を明るくアピールしました。

この祭りは途中休憩を挟むものの、2時間以上は踊りつづななです。踊りの後は、イタリアンレストラン「Cucina Masanori」特製のカレーライスとジェラートを味わいました。残念ながら踊り審査の受賞は逃しましたが、普段異なる部署で働くスタッフや学生が入り混じって熱く踊り、お互いの絆を深めることができました。



過去最多の参加者を集めた松本歯科大学連

(補綴学・歯内療法学・歯周病学・矯正学・口腔外科学・小児歯科学・内科学・看護学・人間学等々)の知識や技術を集結させ、咬合のエキスパートとして患者さんに良好な結果をもたらす臨床力を構築していただきたいと思えます。

認知症予防や8020運動の次のステップに対する歯科のビジョンを探り、最終的には本学会員であることに誇りを持つような学会を目指していく。

(歯科補綴学講座 講師 松山雄彦)

名画で楽しむギリシア神話(29)

オデッセイア ⑤

船も部下もすべてを失ったオデッセウスは、たった1人で大海原を漂い、オギュア島に流れ着いた。ここは海の女神カリブソが住む島であった。

天を支える巨神アトラスの娘であるカリブソは、たくましい英雄オデッセウスにすっかりほれこんだ。悲運に泣く彼を女神は優しく甘い言葉で慰め、手厚くもてなした。(図1)



図1 Jan Brugel de Oude: オデッセウスとカリブソ

大風が起り、海神が送った巨大な波が筏をバラバラに打ち砕いてしまった。海に投げ出されたオデッセウスは、2日2晩波にもたあそばされ、力も尽き果てそうになったが、女神アテナは彼を見捨てな



図2 Arnold Backlin: 故郷への思いに苦しむオデッセウス

かした。彼女たちの歌声に目を覚ましたオデッセウスは、無一物で丸裸となった姿を恥じながらも助けを求めた。(図3)



図3 Pieter Lastman: オデッセウスとナウシカ

彼をタガモノではないと見定めたナウシカは、着物と飲食物を与え、王宮へと案内した。パイエスセス人の王アルキノオスと妃アルテは、仔細ありげな客人を食事に招いてくれた。その席で楽人がトロイアの物語を歌うのを聞いたオデッセウスが落涙したことをきつかけに素性が明かされる。彼は問いかけに応じて、自分がトロイア戦争に従軍したイタカの王であること、カリブソの島に7年間いて、8年目に許されて帰郷の途にいたが、海神が送った嵐で遭難し、ようやくこの島に辿り着いたこと、そして王女に助けられたことを話した。

第38回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 第5学年 吉田拓真君が日本歯科学生連盟の活動を発表



堂々とポスター発表を行った吉田君

7月19日(金)・20日(土)の2日間、福岡市のパピヨン24において第38回日本歯科医学教育学会総会および学術大会が開催され、歯学部第5学年の吉田拓

真君が「日本歯科学生連盟第1回本大会の開催経緯―全国の歯科学生との交流を目指して―」と題したポスター発表を行った。発表内容は、昨年発足した日

本歯科学生連盟の今までの活動をまとめたものである。海外では、以前より世界各国の歯学部学生団体の活動が活発に行われている。日本においても歯学部学生間の交流と自らのスキルアップを目的として、全国の歯科大学、歯学部学生の有志が声を上げ、日本歯科学生連盟 (Japan Dental Students Association // JDSA) の発足に至った。JDSAの第1回大会は、昨年12月に松本歯科大学で開催され、総会や教育セミナー、ワークショップ懇親会等が行われた。

ポスター発表は、九州大学病院口腔総合診療科の和田尚久教授を座長に、プレゼンテーション5分、質疑応答2分の計7分間で行われた。吉田君は堂々と大きな声で発表し、質疑応答に際してもよどみなく対応した。発表終了後、ポスター発表の座長を務めていた本学歯科保存学講座の亀山敦史教授より、「部屋の隅々まで声が届きすばらしい内容だった」と評価を受けた。今大会では、JDSAセミナーも再度開催され、吉田君と学生連盟の学生の司会により、「顎関節症の診断基準(DC/TMD)」に基づく咀嚼筋と顎関節の触診」というタイトルで、九州歯科大学の学生によるハンズオンセミナーで実技を含めた講演が行われた。

自ら疑問点を発見し調査結果を効果的に発表 第1学年オープンセミナー発表会

第1学年の教養教育科目「オープンセミナー」の発表会が7月19日(金)の2・4時限目、キャンパスイン101教室にて行われた。本セミナーは、問題解決型学習(PBL: Problem-based Learning)による主体的学修能力と問題解決能力の育成を目的としたもので、具体的な事例や問題点をもとにした課題に取り組む能力が必要とされる。すなわち、担当教員が提示するいくつかのテーマに対し、各学生が興味あるものを選択して受講し、学生自身が図書館やインターネット、実験により調べることとなる。今回は、「ニューロサイエンス入門」「骨を強くする」「かたちをくわらべてみる」「骨吸収はなぜ起こるか」「エピソードで楽しむ人類と医学の歩み」についての発表が行われた。



ニューロサイエンス入門について発表した学生グループ

各グループはパワーポイントを用いて発表し、その発表にはそれぞれの創意、工夫がみられ、調査結果を効果的に伝えていた。どの学生もテーマに対して深く追求してすばらしい発表を行い、質疑応答にも十分に対応できていた。学生を指導していただいた教員の方々にも感謝申し上げる次第である。講義形式による知識伝達型の学習のみではなく、自ら疑問点を発見し、自分自身で調べることにより、深い知識と学修態度を身につけることができる。本学のディプロマ・ポリシーの一つである「歯科医師と

衛生学院歯科衛生士学科 一日体験入学を開催 在学生の指導で診療補助体験

7月27日(土)、本年度第2回目の衛生学院一日体験入学が開催された。県内各地より35組60人と多数の参加があり、会場の創立30周年記念棟「常念岳」の間は受験生とその家族で埋め尽くされた。

午前中は、教員紹介の後、笠原悦男衛生学院院长の挨拶、島田陽子教務主任の模擬授業と続き、学内を見学した。次いで、「学食体験」として学生食堂で歯科衛生士学科第3学年生と同じテーブルを囲み、在学生との会話を楽しみながら昼食のひと時を過ごした。

午後には大学病院2階の総合口腔診療部門エリアで診療スペースに入り、3年生からユニットや機材の説明を受けながら実際にバキューム操作を行い、患者役の在学生を相手に歯科診療補助の一端を体験した。実習の間には歯科に関するクイズも出題され、正解数の多かった参加者にプレゼントが贈呈された。クイズには国家試験で出題された問題も含まれており、参加者にとっては歯科衛生士になるための厳しさを実感した瞬間であったと思う。見たり聞いたりするだけでなく、自ら考え、実際に診療器具を手にした動かし体験は大変好評であった。また、教える側の3年生も頼もしく感じられた。

陽子教務主任の模擬授業と続き、学内を見学した。次いで、「学食体験」として学生食堂で歯科衛生士学科第3学年生と同じテーブルを囲み、在学生との会話を楽しみながら昼食のひと時を過ごした。

秋田、レバノン、スイス、イタリアと旅が続いた。お盆には一旦松本に戻ったが、今(8月27日)はカナダで翌週からアメリカ。連戦の最中、懐かしい人々と会い、懐かしい景色を眺める。以前は何も感じなかった景色、樹木の種類や花、山岳電車の流れに目が行き心が和む。イタリアではオランダでのホームステイ先の娘さん家族と偶然再会した。実に20年ぶりくらいで昔話に花が咲いた。初の海外遠征で言葉や文化、考え方の違いなどを教えてくれたのが彼女で、同い年とはいえ姉のような存在だった。あれから長い時間が過ぎ、多くの経験を積んだことで日本の良さや海外との違いを海外目線で感じられたのはとても幸せなことだと思った。思い出話が出尽くし、お互いの娘の話になった。彼女の娘さんは日本文化、特にアニメについてとても知りたいようで、秋葉原の街からかなりディープな部分まで質問されたが、アニメは全くの無知でただただ「そうなんだ」と感心するばかりであった。しかしよく考えると、遠く離れたオランダの小学生が知っている日本の情報を当の日本人が知らないという現実。もちろんインターネットの発達といった背景によるものだが、アニメという表現物は日本文化として確実に海外に広まっている。娘さんは秋葉原に興味を持ち「留学したい」とまで言っていた。世界中の人々が日本文化に興味を持つことで、それらはより深まりを見せる。日本が世界に誇れるものがまだまだ多く眠っているのではないかと思う。

MTBペタリング 随想記



元JF2一五輪日本代表 鈴木 雷太

病院だより vol.13

シリーズ専門性⑥

中央診療施設
中央手術室

中央手術室は、1972年松本歯科大学病院手術室としてスタートし、47年が経とうとしています。口腔外科の抜歯や口唇口蓋裂の手術などを経て、2008年から新病院中央手術室となりました。その後、医科部門が併設され眼科手術を開始し、17年から耳鼻いんこう科、18年から皮膚科手術も始められ、現

在6診療科（口腔外科・小児歯科・地域連携歯科・眼科・耳鼻いんこう科・皮膚科）の手術が行われています。歯科部門では、過剰歯、腫瘍摘出、顎変形症、全身麻酔下集中歯科治療、眼科では白内障、網膜剥離、耳鼻いんこう科では鼻、耳、喉に及ぶ全身麻酔下手術、皮膚科では腫瘍、腫瘍摘出などの手術が主に行われています。1995年には年間手術件数が200件以下でしたが、2018年ではおよそ600件と



手術中の様子

年々増加傾向にあり、看護師5人で日々奮闘しております。手術室看護師の役割は大きく分けて二つあります。その一つが器械出しです。器械出し担当看護師は、事前に手術に必要な器械の整理、準備を行

い、術中、手術の進行状況や医師の動きをみて、迅速かつ的確に執刀医に器械を渡します。もう一つの役割は外回りです。外回り担当看護師は、手術を外からみて幅広くサポートを行います。手術を受ける患者さんに必要な処置、手術進行に応じた必要物品の準備、麻酔の介助、患者状態の観察、手術の記録など、業務内容は多岐にわたります。「手術を受ける」ということは、患者さんにとって未知で不安なものです。その漠然とした



中央手術室の看護師チーム

不安を少しでも理解し、患者さんが安心して手術を受けられるよう、安全で安心な医療を提供することに手術室看護師は日々努めています。また、手術に関わる全てのスタッフが連携して業務を行うために、手術室看護師は手術チームの中心となり、患者さんの立場に立って判断し、介助出来るよう、専門的な知識、技術を身に付けるべく、これからも日々研鑽に努めていきます。

7月6日（土）、信州ACEプロジェクトの取組の一環である「ACEまち歩きワークショップ」へ第5学年の野崎涼太君、橋倉雅英君とともに参加し、松本市の浅間温泉街にてウォーキング体験を行った。

学生有志が健康増進のウォーキング体験 ACEまち歩きワークショップ

世界一（ACE）の健康長寿を目標として健康増進を図る長野県の県民運動でACE = Action（体を動かす）、Check（健診を受ける）、Eat（健康に食べる）

プロジェクトの取組の一環である「ACEまち歩きワークショップ」へ第5学年の野崎涼太君、橋倉雅英君とともに参加し、松本市の浅間温泉街にてウォーキング体験を行った。

ウォーキング終了後は、若い世代に健康増進の意識を高めてもらうための効果的な普及・発信方法の検討会があり、野



道祖神や史跡の説明を聞く野崎君（左）

今回のウォーキング体験は、浅間温泉街を巡って地域の守り神である「道祖神」や地域の歴史を学びながらまち歩きを楽しむという内容で、松本大学の学生がコースを設定し、案内を行った。途中、急な勾配がある

同世代に発信していきたい。

第5学年生7人が中国河北省で臨床実習 他国の医療機器や症例を学び活躍を誓う



河北医科大学口腔院での診療を熱心に見学する学生たち

7月28日（日）から8月3日（土）の日程で、中国の河北医科大学口腔院および河北省人民医院にて第5回中国河北省臨床実習プログラムが実施され、本学から第5学年の小野亜美さん、何家瑜さん、郭子揚君、小山惇君、清野倅司君、花村恒君、吉田拓真君の7人の学生が参加した。

臨床実習初日、実習開始に先立ち、河北医科大学口腔院からの歓迎会が開催された後、補綴科診療室での実習を行った。学生実習室および研究施設を見学し、その充実ぶり（マイクロスコープ実習も可能な設備）に一同驚かされた。

2日目は、矯正歯科診療室にて河北医科大学での矯正治療に関する講義を受講し、午後は矯正科診療室での実習を経て小児歯科診療室での実習となった。中国も夏休みであり両科には非常に多くの患者さんが来院され、待合の椅子などで概形印象採得を行う光景は斬新であった。

3日目は口腔粘膜科診療室で実習を行った。扁平苔癬などの粘膜疾患を見学し、実際の症例を目にできたことは有意義であった。さらにレーザー医学科診

療室でレーザー治療の講義を受けた後、実際のレーザー治療（冠延長術）も見学した。4日目は歯科口腔外科診療室で実習を行った後、口腔放射線科診療室で画像検査機器を見学した。実習途中には、河北省博物館参観や正定隆興寺拝観など

日本文化に多大な影響を与えた中国文化に触れる機会もあり、中国悠久の歴史を肌身で感じ取ることができた。

最後に、1週間という短期実習であったが、参加した学生にはこの機会を忘れることなく歯科治療に関する幅広い見識を持つて精進されることを切に願うばかりである。

第6学年生が英語で研究発表 第25回SCRRP日本代表選抜大会

2人は、第3学年の選択科目「歯科医学研究」において長谷川博雅教授の指導のもと本研究を行い、臨床実習を終えた後、第6学年に入ってから春休みや夏休み期間を利用して研究に取り組みできた。第5学年時には清水さんを代表として、一般財団法人長野県科学研究費助成金の交付を受け、この助成金をもとにさらに研究を進めた。

本研究ではマンマクロピンが口唇腺の腺房から導管に至るすべての種類の細胞に分布するが、導管に比べて腺房に多く分



英語でポスター発表した清水さん（左）と大谷さん

布し、性差や年齢との関連なく分布することをタンパク質の局在の点から明らかにした。さらに、マンマクロピンの遺伝子発現も確認でき、これらの結果を裏付けることができた。この研究結果は分泌腺などのマンマクロピンを産生する唾液腺腫瘍の

発生機序の解明につながる可能性がある。

2人が第6学年を迎え、本研究はここで終了となる。彼女らが大学院生や研修歯科医になった際、この3年間で培った研究の基本手法や研究発表を通じて身につけた論理的な考え方が少しでも役立てば嬉しく思う。

「週刊朝日」特集記事 全国の「眼のいい病院」 本学病院眼科が掲載

障、緑内障、加齢黄斑変性、飛蚊症などについて解説。眼に異常を感じた場合は速やかな受診を呼びかけている。

また、眼科を有する全国の病院の中から、眼のいい病院リスト439病院を掲載。長野県では9病院がリストアップされ、本学病院も紹介されている。本学病院眼科の年間の網膜硝子体手術数は、県内では2番目に多い77件、成功しないと失明のおそれがある網膜剥離の硝子体手術は20件、白内障手術295件（うち高度先進医療の多焦点眼内レンズ手術が7件）という手術数も挙げられ、これらの数字から本学病院眼科が高度な医療を提供する機関として位置づけられている。

Alumni News

松本歯科大学校友会

長野県支部 総会および記念講演会を開催 信州大学・遠藤守信特任教授を迎えて 「先端技術と教育で拓く地方の時代」

なりました。協議では、大学の体育館と実習館の耐震補強工事について大学より宇田川信之歯学部部長が概要を説明され、事業に伴う校友会としての協力対応について議論されました。総会に引き続き、記念講演会は講師に信州大学特任教授の遠藤守信博士をお招きし、「先端技術と教育で拓く地方の時代」と題して開催されました。遠藤教授は今話題のカーボンナノチューブの開発者で、現在日本人で最もノーベル賞に近い科学者と言われております。遠藤教授の研究成果を基に新たに開発された多種多様な素材や製品が、既に日常生活にも活用され、私たちがその恩恵に浴していることは周知の通りです。ご講演は単なる研究に関する話にとどまらず、日本の科学界における世界との比較、とりわけ教育に関する課題を力説されました。今後あらゆる分野でAIによる自動化が進む中で、人間に必要とされる能力は創造力と社会技術力である。停滞感



長野県支部会員

の科学技術力の後退、大学生の研究心の低下には危機感を感じる。反面、都会より地方の学生の方が勉強に対する意欲が強くなっている事実もあり、その地域の特性を伸ばした教育システムが望まれ、人を育てることが国の豊かさに繋がっていくと述べられました。その後、会場を移し、記念写真撮影後、懇親会を開催しました。来賓として本学理事長矢ヶ崎雅先生のご挨拶をいただき、続いて就任直後の長野県歯科医師会・伊藤正明会長はじめ、地元郡市会長の皆様に「祝辞をいただきました。会場では歌手の汐入規与さんによるピアノ演奏をバックに、和やかな時間を持つことができました。また、長年にわたり歯事業に尽力された長野県歯科医師会前会長・春日司郎先生（1期生）、前常務理事・笠原哲三先生（4期生）の功績を称え、校友会から感謝を込めて表彰状が贈呈されました。翌23日（日）には長野県カンパリークラブで親睦ゴルフコンペが開催されました。来年度は東信地区の主管で開催される予定です。

6月22日（土）、長野県支部第36回支部総会および学術講演会が、長野市のホテルメトロポリタン長野で開催されました。総会には、総勢60人ほどの会員が出席し、夏目千明議長（4期生）の進行により、2018年度業務報告、校友会本会総会の報告をされた後、収支決算、有賀功監事（3期生）による監査報告があり、2019年度事業計画、予算案として新役員選出、会則の一部変更など5件の議案が上程され、それぞれ満場一致で可決されました。これにより笠原哲三支部長（4期生）体制の二期目が発効すること

の日本に必要なのはイノベーションであり、そのためには社会の教育水準、豊かさ、活力、市場規模が成熟している必要がある。その点、日本はそれを惹き起せる可能性を持っている。現実には博士課程への進学者が減少傾向であり理数系科学者の養成が必須となる。最近の日本

の科学技術力の後退、大学生の研究心の低下には危機感を感じる。反面、都会より地方の学生の方が勉強に対する意欲が強くなっている事実もあり、その地域の特性を伸ばした教育システムが望まれ、人を育てることが国の豊かさに繋がっていくと述べられました。その後、会場を移し、記念写真撮影後、懇親会を開催しました。来賓として本学理事長矢ヶ崎雅先生のご挨拶をいただき、続いて就任直後の長野県歯科医師会・伊藤正明会長はじめ、地元郡市会長の皆様に「祝辞をいただきました。会場では歌手の汐入規与さんによるピアノ演奏をバックに、和やかな時間を持つことができました。また、長年にわたり歯事業に尽力された長野県歯科医師会前会長・春日司郎先生（1期生）、前常務理事・笠原哲三先生（4期生）の功績を称え、校友会から感謝を込めて表彰状が贈呈されました。翌23日（日）には長野県カンパリークラブで親睦ゴルフコンペが開催されました。来年度は東信地区の主管で開催される予定です。

の日本に必要なのはイノベーションであり、そのためには社会の教育水準、豊かさ、活力、市場規模が成熟している必要がある。その点、日本はそれを惹き起せる可能性を持っている。現実には博士課程への進学者が減少傾向であり理数系科学者の養成が必須となる。最近の日本

7月27日（土）、大津市のコラボしが21にて学術講演会が開催された。講師は本学病院医科病院長、歯学部内科学教授 前島信也先生をお招きし、「口腔機能から貢献する」をテーマとした講演会が行われた。当日は台風が近畿地方に接近するといった悪天候にもかかわらず、向上心あふれる校友会員が参加された。

はじめに講師の自己紹介が行われ、信州大学医学部第二内科に在籍されていたとき、東京大学から肝臓の移植外科で有名な幕内雅敏先生が信州大学医学部第一外科教授に就任した際、肝移植チームの一員として、消化器内科、特に肝胆膵専門医の立場から移植に参画された時のエピソードが紹介された。

口腔機能から貢献する。歯科連携の実例に關し症例提示があった。歯科用器具の誤飲に對して内視鏡を駆使して異物を回収した臨床例や閉塞性睡眠時無呼吸症候群を有する患者の診断・治療、腎機能異常を有する口腔外科入院患者に対する対応症例が提示された。腎機能を評価する臨床検査値のeGFRが35・8と低値の患者に対する造影検査の可否等、緊密な連携が行われている状況がうかがわれた。更に摂食嚥下リハビリ外来の利用状況や健診センターで実施される歯科人間ドックについて運用状況の報告があった。最後に、従来型の歯科、すな

わち外科の一分野に属する保存修復や観血処置の臨床に加え、今後は口腔内科医としての側面、たとえばリハビリテーション（摂食嚥下機能訓練）や口腔機能管理を通して糖尿病等の生活習慣病予防や介護予防、栄養管理にも長けたチェンジリダーとしての役割を担う歯科医師像について熱弁された。活発な質疑応答の後、校友会副会長、小川益弘先生（9期生）の謝辞で講演が終了した。席を懇親会場である大津市内のあゆらへへ移した。校友会副会長、若田盛満先生（12期生）の乾杯により懇親会の口火が切

骨をテーマにした可愛らしいイラストが好評の本学公式キャラクター8種が、7月5日付けで商標登録された（登録番号・第6160307号）。キャラクターは、本学公式ウェブサイトに大学祭「松濤祭」のパンフレットなどで使われたほか、「松本ほんほん」「まつもと広域ものづくりフェア」などでも大学PRに有効活用されている。また、大学公式Twitterでもキャラクターが情報発信してPRに役立っている。これらは2017年の松濤祭実行委員会のメンバーがデザインし、骨芽細胞（オステオブラスト）をイメージした「プラストちゃん」と破骨細胞（オステオクラスト）を表す「クラストくん」を製作したことがきっかけで誕生した。翌18年に「PTH」「カルシトニン」「活性型ビタミンD」「サイトちゃん」

愛知学院大学歯学部生化学講座の鈴木崇弘教授を講師にお迎えして、大学院セミナーが5月31日（金）に開催された。生細胞におけるタンパク質分泌の生物発光イメージング法について講演いただいた。生物発光は、ルシフェラーゼ（酵素）とルシフェリン（発光基質）の酵素反応による発光現象である。生物発光イメージング法では、分泌型ルシフェラーゼがルシフェリンを含む培養液に分泌された瞬間に起こる微弱発光を、外部光を遮断した高感度カメラ顕微鏡システムで可視化する。哺乳類細胞の分泌経路に発現させた際に高い発光活性を示すガウシアルルシフェラーゼ（Gaussia luciferase: Gluc）は、本手法の最適なレポータータンパク質である。解析目的の分泌タンパク質とGlucとの融合タンパク質を発現させた細胞の培養ディッシュに発光基質セレンテラジンを添加し、水冷EM

愛知学院大学歯学部生化学講座の鈴木崇弘教授が講演「タンパク質分泌動態の生物発光イメージング」

Economic News

内外の経済 8月29日付

日本	20,404.08円
米国	26,036.10ドル
金店店頭価格 (消費税込み)	
売り (1グラム)	5,682円
買い (1グラム)	5,597円
白金店店頭価格 (消費税込み)	
売り (1グラム)	3,404円
買い (1グラム)	3,275円

米ドル	106.99円	0.20%
英ポンド	130.44円	0.10%
スイスフラン	109.02円	0.01%
ユーロ	118.48円	0.01%
タイバーツ	3.54円	0.10%
日本円	—	0.01%

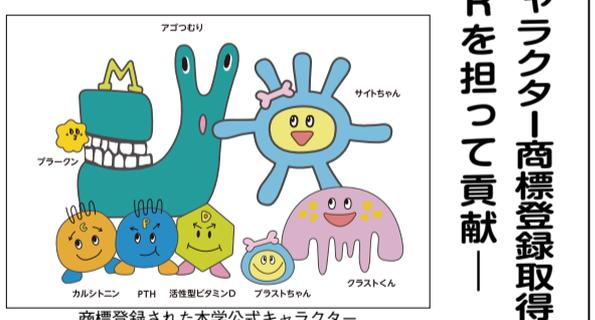
(SMBC 信託銀行HP等より)

学生デザインの公式キャラクター商標登録取得
— さらに大学PRを担って貢献 —

愛知学院大学・鈴木崇弘教授が講演
「タンパク質分泌動態の生物発光イメージング」

人事異動
採用 7月16日付
松原真由美 重篤学務課長補佐（重篤）
千葉 恭代 臨床検査部課長補佐（重篤）
伊藤 高志 事務局総務課長（重篤）
塩原 静 重篤学務課長補佐（重篤）
本多 明子 重篤学務課長補佐（重篤）

9月行事予定
1日(日) 一日体験入学 (歯学部)
2日(月) 12日(木) 前期定期試験 (衛生学院第2学年)
4日(水) 後期授業開始 (第1・3学年)
9日(月) 19日(木) 前期定期試験 (衛生学院第2学年)
10日(火) A〇入試 (衛生学院)
11日(水) Ⅲ期試験 (第6学年)
14日(土) A〇入試 (衛生学院) 合格発表
18日(水) 編入学試験 (Ⅰ期)
23日(月) 編入学試験 (Ⅱ期) 留学生入試 (C) 合格発表
25日(水) 一日体験入学 (歯学部)
26日(木) 大学院発表会
27日(金) 前期定期試験 (衛生学院第2学年)



受験生の皆さんへ

見せてほしい 君の個性 君の情熱

A〇入試 (I期)
試験日 9月14日(土)
出願期間 8月26日(月)～9月11日(水)

一日体験入学
①9月1日(日) ②9月23日(月・祝)
※9月開催分のみ掲載
開催時間 9:40～15:00 (受付 9:15～)
●キャンパスツアー ●ランチ体験
●模擬実習 ●入試説明・進学相談 など
※参加希望の方は、本学ホームページまたは下記までご連絡ください。

お問い合わせ
HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学 入試広報室
www.mdu.ac.jp